食品市場新聞

FABEX関西

前回上回る3万人が来場

業務用食品・食材など集結

関西最大級の業務用食品・食材の総合見本市「FABEX関西2023」が11日からの3日間、大阪市住之江区のインテックス大阪1・2号館で開催され、前年を上回る3万769人が来場した。

「食品・食材」「機器・機械」「容器・包装」の3分野が一体となった総合展示会として毎年開催している。会場内は、外食・中食の専門展「ファベックス」、各地の地域食品を集めた「地域食品ブランドフェア」など6つの展示会で構成。今回は394社・541小間が出展した。

㈱合食は、サケフレークをはじめ、焼きイカ、生珍味など同社の主力商品を中心に展示。明太子メーカー「かねふく」とのコラボによる「ほぐし鮭　かねふく明太子」、サクサクのノリ天にカキしょうゆをしみ込ませた「しっとり　のり天」、八幡屋礒五郎とのコラボ商品「イカ七味焼き」が注目を集めた。

倉敷青果㈱は、同社の自社工場で製造するコンシューマーパックサラダのほか、炒め物用、鍋物用、天ぷら用などの各種カット野菜を紹介。コロナ禍から外食産業が回復に向かっていることや人件費の上昇などにより、「業務用カット野菜のニーズが高まっている」（同社）という。

業務用食品が集結したFABEX関西の会場内